

相談援助演習IV

担当教員 橋本 真奈美

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
- ②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
- ③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・組織化等）
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチの理解
6	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の振り返りから、CSWの役割理解
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉（活動）計画の理解
8	地域福祉（活動）計画の実技指導、地域福祉の基盤整備と活動主体の組織化の理解
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングの理解
10	地域福祉の基盤整備と活動主体の組織化、ネットワーキングの学びの振り返りからCSWの役割理解
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発の理解
12	社会資源の活用・調整・開発に関する事例から地域福祉の理解の深化
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価の理解
14	サービス評価の実技指導、地域福祉の基盤整備と開発について理解の深化
15	コミュニティソーシャルワーク、コミュニティワークの振り返り、体系の理解

【履修上の注意事項】

グループによる学習が中心となるので、積極的な姿勢で授業に参加すること。
これまで学んできた相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを活かしつつ、関連する領域の科目も視野に入れて事例等に取り組むこと。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】

授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出&内容から30%
試験から50%

【テキスト】

『ソーシャルワーク基本用語辞典』 2013年刊 川島書店

【参考文献】

必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習IV

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワーク展開過程の理解
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチの理解
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉計画の理解
8	地域福祉計画の実技指導
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングの理解
10	ネットワーキングの技術指導
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発の理解
12	社会資源の活用・調整・開発の実技指導
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価の理解
14	サービス評価の実技指導の理解
15	ミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークの理解

【履修上の注意事項】

グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の出席は必須と考えてほしい。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。学生状況を見ながらフィールドワークや特別講師による講話などを取り入れ、ソーシャルワーク実践力の習得を図ることもある。予習復習を行うこと（120分程度）。

【評価方法】

出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度(予習・復習を活かした発表など) 50%, 課題レポート等50%により評価する。

【テキスト】

『社会保障の手引 平成31年度版 一施策の概要と基礎資料一』中央法規

『ソーシャルワーカーのための成年後見入門一制度の仕組みが基礎からわかる一』ミネルヴァ書房

【参考文献】

『ステップファミリーのきほんをまなぶ—離婚・再婚と子どもたち—』金剛出版

開講時に適宜紹介する

相談援助演習IV

担当教員 隈 直子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な援助場面を想定した実技指導やグループワーク等を通して実践的に習得することができる。②総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化し理論化し体系立てることができる。③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握できる。

【授業の展開計画】

- 01 コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解。
- 02 コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・活動主体の組織化など）
- 03 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導 地域アセスメント
- 04 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導 地域住民に対するニーズ把握
- 05 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から地域住民に対するアウトリーチの理解
- 06 地域住民に対するアウトリーチの実技指導
- 07 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から地域福祉（活動）計画の理解
- 08 地域福祉（活動）計画の実技指導
- 09 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例からネットワーキングの理解
- 10 ネットワーキングの実技指導
- 11 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から社会資源の活用・調整・開発の理解
- 12 社会資源の活用・調整・開発の実技指導
- 13 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例からサービス評価の理解
- 14 サービス評価の実技指導
- 15 振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】

グループによる学習が中心となるので、積極的な姿勢で授業に参加することと、これまで学んできた相談援助演習I・II・IIIを活かして授業に取り組むことを求めます。

授業前には、資料や関連する科目のテキスト等を読んでおくこと（60分）。授業後には、授業内容をふり返り、分からなかった専門用語等を確認すること（60分）。

【評価方法】

授業態度・発表の内容・技能習得状況（50%）、課題レポート・学期末時の課題（50%）により評価します。

【テキスト】

開講時に指示します。

【参考文献】

授業内で紹介します。

相談援助演習IV

担当教員 田島 望

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し、必要な力量を獲得・実施することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・組織化等）
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチを理解
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉（活動）計画の理解
8	地域福祉（活動）計画の実技指導
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングを理解
10	ネットワーキングの実技指導
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発を理解
12	社会資源の活用・調整・開発の実技指導
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価を理解
14	サービス評価の実技指導
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】

- ・相談援助演習I・II・IIIを修得済であることを前提とする。
- ・演習形態の授業であるため、各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求める。
- ・次回の講義内容をよく確認し、テキスト等を読んで講義科目的復習を行っておくこと（60分）。
- ・演習後は内容についての復習を行い、分からなかつた専門用語等を調べておくこと（60分）。
- ・講義を積みあげて、「ねらい」の達成、実習の充実を目指すため、出席は必須と考えてください。

【評価方法】

演習の参加態度と講義内の課題への取り組み（40%），課題レポート（30%），学期末総合課題（30%）により評価します。

【テキスト】

講義内にて、適宜紹介・配布します

【参考文献】

講義内にて、適宜紹介します。